第3回 新宿の拠点再整備検討委員会

新宿の拠点再整備の方向性について

(リード文)

新宿の拠点再整備検討委員会

〇設置目的

新宿駅直近地区の整備方針及び周辺地域との交流や回遊性向上に資する都市基盤の整備方針の検討

〇設置経緯

築50年以上が経過した駅ビルの建替えを契機として、駅施設や駅前広場も含めて一体的・抜本的に改造する機会を迎えている。これらの整備にあたっては、自治体や公共施設の管理者、鉄道事業者が共に協議し、方針を共有化する必要があるため、新宿の拠点再整備検討委員会を設置した。

〇委員会の構成

会 長 : 日本大学 理工学部 教授 岸井隆幸

副 会 長 : 東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 中井検裕

委 員 : 国土交通省 東京国道事務所長

東京都 都市整備局 都市づくり政策部長 東京都 建設局 道路管理部長 東京都 建設局 道路計画担当部長 東京都 建設局 道路計画担当部長 東京都 交通局 企画担当部長 新宿区 都市計画部長 新宿区 みどり十木部長

渋谷区 都市整備部長

東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 品川・大規模開発部次長 小田急電鉄株式会社 プロジェクト推進本部 新宿プロジェクト推進部長

東京地下鉄株式会社 事業開発本部 不動産事業部長

京王電鉄株式会社 開発事業本部 開発企画部 新宿再開発推進室長

西武鉄道株式会社 鉄道本部 計画管理部長

オブザーバー: 国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官

国土交通省 都市局 市街地整備課 拠点整備事業推進官

警視庁 交通部 交通規制課 都市交通管理室長

事 務 局 : 新宿区 都市計画部 新宿駅周辺整備担当課

東京都 都市整備局 都市基盤部 街路計画課

東京都 都市整備局 都市づくり政策部 開発企画課

新宿の拠点再整備方針の位置づけ

新宿の新たなまちづくり~2040年代の新宿の拠点づくり~(2017年6月 東京都・新宿区)

より長期的・広域的な視点からの新宿駅周辺地域が果たすべき役割とまちの将来像 将来像実現に向けた地域全体のまちづくりの方向性

(仮称)新宿の拠点再整備方針 (新宿の拠点再整備検討委員会)

「新宿の新たなまちづくり」を受け、先行して再編が見込まれる新宿駅直近地区の整備方針及び周辺地域 との交流や回遊性の向上に資する都市基盤の整備方針を策定

まちの成立ち

甲州街道の一つ目の宿場町・内藤新宿の開設



都心と郊外を結ぶターミナルとして東口の繁華街形成





百貨店等が建ち並ぶ東口周辺

新宿副都心の形成による市街地拡大





市街地再開発事業等による超高層化の進展



それぞれに個性あるまちの発展

- ・明治期には新宿駅の開業とともに、東口を中心に 店舗・百貨店や劇場等が建ち並ぶ繁華街を形成
- ・戦後には、復興計画により歌舞伎町の繁華街が 形成され、飲食店や劇場・映画館などのエンター テイメント機能が充実
- ・高度成長期以降の西新宿超高層ビル地区の形成に より、東京有数のビジネス拠点に発展

ターミナルの成立ち



新宿への鉄道乗入開始





駅施設に付随する駅ビルや駅前広場の建設





鉄道網の発展に伴う駅構造の複雑化



拡大する新宿駅



鉄道網の発達に伴う駅構造の複雑化と 一体的・抜本的な改造の機会

- ・明治期の日本鉄道新宿駅の開業を皮切りに、 鉄道各線の駅が次々に開業
- ・1960年代には、駅施設の大規模改良、駅ビ ルの建設、時代を先取りした西口立体広場 の建設などが進み、概ね現在の姿となった
- ・鉄道網の発達とともに、路線が地下化・ 立体化し、駅構造が複雑化
- ・築50年以上が経過した駅ビルの建替えを契 機として、駅施設や駅前広場も含めて一体 的・抜本的に改造する好機を迎えている

2

新宿のまちの特件・課題

現在の新宿の特性

様々な目的を持った 膨大な来訪者を受入れるまち



- ◎7駅8路線が結節し、世界一の乗降 客数を誇るターミナル駅
- ◎都心の各拠点と乗換えなしで20分 以内にアクセス可能
- ◎首都高速中央環状線やバスタ新宿 の整備により、空港や人気観光地 へのアクセス性が向上

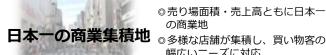


主な課題・問題点

- ・駅とまち、まちとまちへの連携強化
- ・都市機能の競争力の向上



- △乗換え流動が局所的に集中・交錯
- △歩行者の滞留空間が不足
- △まちから駅の入口がわかりにくい
- △鉄道とバスタ新宿の乗換えが不便
- △災害時に多くの帰宅困難者が駅に集中



- ◎売り場面積・売上高ともに日本-の商業地
- 幅広いニーズに対応



△近年は商品販売額、売場面積ともにほぼ横ばい △商業集積地の建物の築年数が経過

日本経済を牽引する 誇るビジネスエリア 超高層ビル街

- ◎都内有数の業務床面積、事業所数を
- ◎特定街区等の都市計画手法を活用 した高さ200m級の建築物の集積



- △オフィスビルの築年数が経過
- △都内の他のビジネス拠点では段階的な機能更新 が進み、新宿の相対的な地位が低下

観光客が最も 集まるまち

- ◎交通の要所として観光客の経由地 基点となる
- ◎訪都外国人の約6割が新宿を訪問
- ◎幅広いニーズに対応した宿泊施設が



- △シティホテルを中心とした宿泊施設の築年数 が経過
- △情報案内の不足

まちづくりの視点

①変え、整える

歩行者中心で交流や賑わいを 牛む空間へと変えていく



②繋ぎ、広げる

多様な都市機能を活かして、 相互の連携・融合を広げていく



③育て、伝える

官民連携によりまちの魅力を育て、 伝えていく



西新宿一丁目商店街地区(各地区の組織が連携してまちづくりの活動に取組んでいく場) 「新宿の新たなまちづくり~2040年代の新宿の拠点づくり~」より

2040年代を見据えた新宿駅周辺地域の将来像

国内外の人・モノ・情報が集まり、交わり、刺激し合い、 さらなる魅力や新たな価値を持続的に創出し続ける「国際交流都市・新宿」

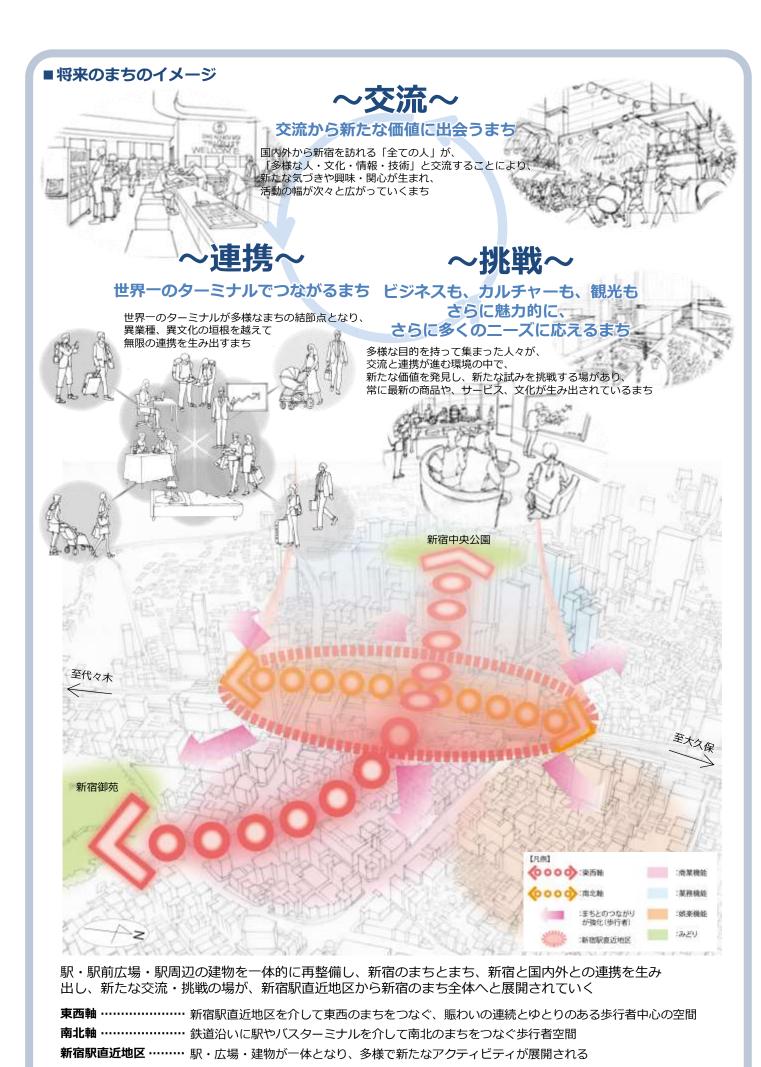
~ 「交流・連携・挑戦」が生まれる人中心のまちへ~

- (1) 車中心のまちから人中心のまちへ
- (2) 多様な都市機能が近接し、連携するまち

■まちづくりの方向性

- ①新宿の魅力の充実・強化
- ③国際水準の環境整備
- ②活動しやすい歩行者空間の創出
- ④まちの魅力を次世代に継承

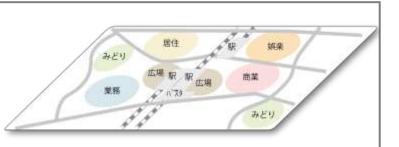
「新宿の新たなまちづくり~2040年代の新宿の拠点づくり~」より



将来像の実現に向けた新宿駅直近地区の再編

【現在】

- 新宿駅東口は商業、歌舞伎町は娯楽、西新宿は 業務を中心にそれぞれに個性ある都市機能が集積
- ・まとまったみどり(新宿中央公園・新宿御苑)は 駅から離れて立地している
- これらのまちが東西に展開されている





Holistic Renovation (一体的な再編) 【新宿駅直近地区の再編】

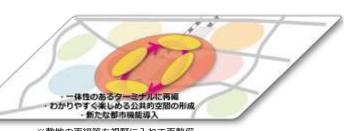
(1)交流・連携・挑戦を創出する新たな ターミナルをつくる

方針①誰もが利用しやすい一体性のあるターミナル に再編(交通結節機能の強化)

方針②交流や賑わいを生む空間形成 (歩行者優先の駅前広場等の整備)

方針③新たな魅力を生み出す都市機能の導入

方針④超高層ビル群との融合



※敷地の再編等も視野に入れて再整備

(2) 駅とまちをつなぎ、まちとまちをつなぐ

方針⑤回遊性を高める重層的な歩行者 ネットワークの形成

方針⑥歩行者優先のエリア形成に向けた 駐車場と駐輪場の再編



(3)次世代へ継承するまちをつくる

方針⑦みどりが連続する空間づくり 方針⑧質の高い環境づくり 方針⑨災害対応力を備えたまちづくり 方針⑩周辺とともに成長するまちづくり





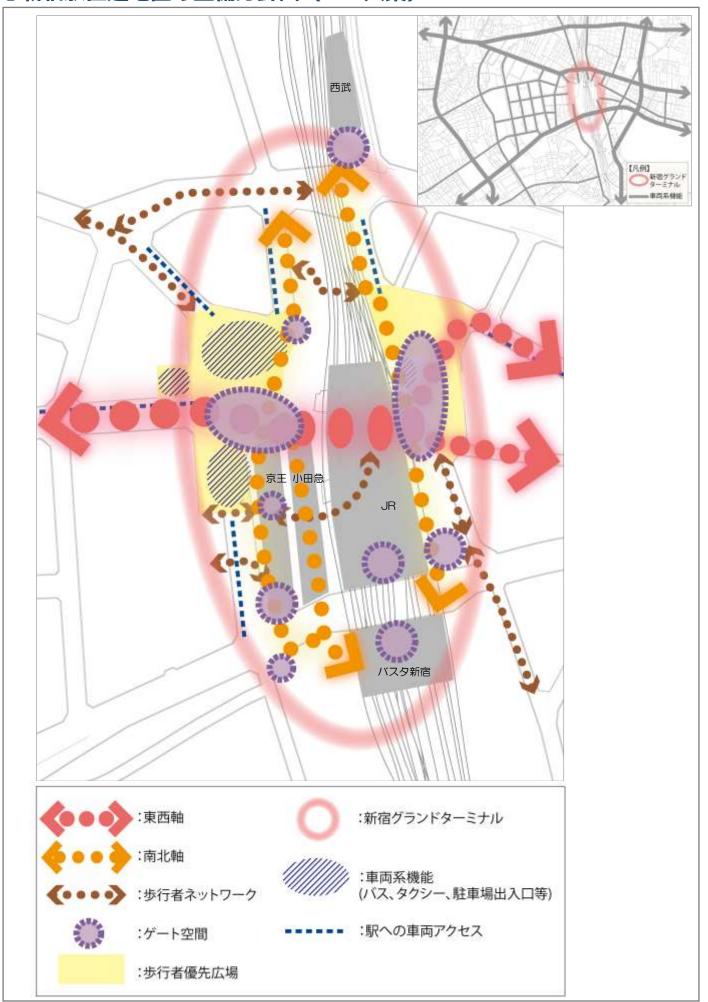
新宿駅直近地区の効果を周辺に波及

- ・新宿駅直近地区でまちとの繋がりを充実・ 強化し、その効果を周辺に波及
- ・周辺地区の機能更新を促進し、地域全体 として質の高い国際交流拠点を形成



5 新宿駅直近地区の整備方針

○新宿駅直近地区の整備方針図(ベース案)



(1) 交流・連携・挑戦を創出する新たなターミナルをつくる

方針① 誰もが利用しやすい一体性のあるターミナルに再編(交通結節機能の強化)

方針② 交流や賑わいを生む空間形成(歩行者優先の駅前広場等の整備)

方針③ 新たな魅力を生み出す都市機能の導入

方針④ 超高層ビル群との融合

(2) 駅とまちをつなぎ、まちとまちをつなぐ

方針⑤ 回遊性を高める重層的な歩行者ネットワークの形成

方針⑥ 歩行者優先のエリア形成に向けた駐車場と駐輪場の再編

(3)次世代へ継承するまちをつくる

方針⑦ みどりが連続する空間づくり

方針⑧ 質の高い環境づくり

方針⑨ 災害対応力を備えたまちづくり

方針⑩ 周辺とともに成長するまちづくり